

庄司 力藏（しょうじ・りきぞう）

1、プロフィール

昭和 37 年朝日新聞の懸賞小説に応募した「羅城恨」が佳作となり、40 年には「靄と渚」で第九回東奥小説賞を受賞。昭和 42 年から 43 年まで「安東船」を「東奥日報」夕刊に連載した。

<生没>

1926(大正 15)年 11 月 25 日 ~

<代表作>

『安東船』(上・下)『想う如く』『黒い顔の女』

<青森との関わり>

田名部町(現むつ市)近川に生まれる。「東奥日報」及び「デーリー東北」に連載小説を発表し、多くの読者を得た。

2、作家解説

小説家。大正 15 年田名部町(現むつ市)近川に生まれた。小学校時代から俳句や綴り方に優れ、「少年倶楽部」に入選した。東京府立第三中学校から帝国商業に学び、この時友人と同人誌を編む。

戦後田名部に戻り、中学校教員となる。昭和 22 年、俳句芦光社創設に参加。24 年、毎日新聞社に応募した「一刻への哀願」が入選。27 年、肺浸潤を病み2年近い療養生活を送る。37 年、朝日新聞懸賞小説で「羅城恨」が佳作。40 年、「靄と渚」で第九回東奥小説賞受賞。42 年1月から 43 年4月まで、「東奥日報」夕刊に「安東船」を連載。

44 年今官一主宰の「現代人」同人となる。48 年「下北文化」設立同人。49 年2月『安東船(上・下)』(津軽書房)刊行、53 年「デーリー東北」に「想う如く」を連載、57 年津軽書房より出版。58 年3月、『想う如く』によって青森県芸術文化報奨を受賞。平成7年 11 月むつ市文化賞受賞。

3、資料紹介

○『安東船』

図書

1974(昭和 49)年2月 20 日

190mm×135mm

昭和 42 年1月から 43 年4月まで、「東奥日報」夕刊に連載したものを、上・下2巻にまとめて刊行した。戦乱の中に生きた3人の女性と、十三湊安東水軍の若き惣領愛季を中心に、下北半島、津軽野にくり広げられる愛憎劇を描いた歴史小説。